

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	乳幼児健診における問診項目の見直し						掲載ページ
							183
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額 24,709 千円	平成26年度予算額 27,660 千円	政策分野 施策名	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行います。			<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。	
<b>活動計画</b>	母子保健調査研究事業（小児保健研究会）において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） <small>（上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】	
	問診項目の見直しの推進（検討会の設置）	3 回	検討会の実施	4 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施し、乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に発見し、支援に繋げることができることから、活動指標としました。 <small>（最終目標と最終年度）</small>					順調	
	<small>（最終目標と最終年度）</small>					遅れ	

【Check】評価（分析）		
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」「効率性」</b> の分析	<p>活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>
		<p>検討会で話し合った結果、問診項目の見直しだけでなく、確実な問診等により、発達障害の早期発見の精度を上げることが必要だと判断しました。医師会のマニュアル検討委員会で検討を行い、幼児健診の健診項目及び健診時のマニュアルの見直しを終了したので順調としました。</p> <p>保健指導をより効果的に行うため、関係機関と連携し、事業目的は達成したため、事業は平成25年度で終了します。</p>

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
<p>問診項目の見直し事業としては平成25年度で終了します。今後は、改訂した問診結果を保健指導にいかしていきます。</p>

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ
							183
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額 24,709 千円	平成26年度予算額 27,660 千円	政策分野 施策名	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課	

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。							
<b>活動計画</b>	育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。		<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。					
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績 (達成率)</b>	→	<b>【活動の状況】</b>			
	わいわい子育て相談の実施回数  発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の実施回数を活動指標としました。  (最終目標と最終年度)	104 回	168 回	104 回  61.9 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック  大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
	わいわい子育て相談の参加者数  発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の参加者数を活動指標としました。  (最終目標と最終年度)	364 人	増加	352 人					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	区によっては相談待機者が出ることもありましたが、多くの専門職種が関わる事業であり、開催回数を増やすためには調整が必要であることから現状維持に留まりました。その後のフォローの場である「親子遊び教室」については、これまで実施していなかった門司区でも開催されるようになったことから、社会資源の充実とみなし順調としました。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	医療関係者等の専門職が実施しており、多職種による多角的視点による相談支援がこの相談の特徴なので、これ以上のコスト削減は困難です。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防につながります。発達が気になる乳幼児に対する早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、確実な開催や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達が気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、効果的な事業の推進を図ります。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	親子通園クラスの設置						掲載ページ		
							183		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,431	千円	2,901	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	直営保育所で「親子通園クラス」を運営し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動計画</b>	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	親子通園クラスの利用者数		269 組	200 組	217 組	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示すには、親子通園クラスの利用率が適当と考えられるため、指標として掲げました。  (最終目標と最終年度)7ヶ所、平成26年度				108.5 %		
						順調	順調
					やや遅れ		
					遅れ		
		(最終目標と最終年度)					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ127組、東篠崎保育所は延べ90組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も62%を超え、移行支援としての成果も出ていることから順調としました。なお、本事業は全国的に先駆けた事業です。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経費資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

実施している2ヶ所について検証していきながら、関係機関との連携、PRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。
---

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	発達障害者支援センターの充実						掲載ページ		
							183		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		31,827	千円	31,809	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	発達障害の特性(人とうまくかかわることが苦手、コミュニケーションの障害や強いこだわり等)から生じる本人の生活のしづらさや家族の負担など、発達障害のある人やその対応に苦慮している家族からの相談に応じ、発達障害のある人及びその家族の福祉の向上を図ります。				
<b>活動計画</b>	発達障害のある人及びその家族の相談支援・発達支援を行います。 発達障害のある人に対する就労支援を行います。 支援者や市民及び関係機関等に対する普及啓発及び研修を行います。		<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績(達成率)</b>	→	<b>【活動の状況】</b>
	発達障害者支援センターの相談支援件数	3,146 件	増加	3,262 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害者支援センターの相談支援件数(相談支援・発達支援・就労支援)の増加が、利用者の悩みや不安の解消につながる判断基準となるため、成果指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)					大変順調
	(最終目標と最終年度)				順調	やや遅れ
	(最終目標と最終年度)				遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成24年度は、相談件数が3,146件でしたが、平成25年度は3,262件へと増加しました。相談者数は平成24年度884人、平成25年度962人と増加しています。このことにより、発達障害者支援体制が有効に働いており、成果の状況は順調であると判断されます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	発達障害者支援センター「つばさ」に、発達障害児者の支援の事業委託をしているため、これまで築いてきた発達障害児者及びその家族等への支援ネットワークを活用でき、経済性・効率性は高いと思われます。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

利用者のニーズに合った事業を継続し、相談支援・発達支援・就労支援を実施します。支援者や市民及び関係機関等に対する普及啓発及び研修についても引き続き行います。
--

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	専門機関との連携による保育所での発達支援の充実							掲載ページ	
								183	
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。		
<b>活動計画</b>	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。					
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	専門機関と連携した発達障害児の支援			—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。 （最終目標と最終年度）	—	—	—		
	保護者支援の取り組み			—	順調	順調
保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合い、共通理解を深めながら、個別の支援計画を作成し、保護者の悩みなどを支えます。子ども一人ひとりの状況に応じ、専門機関との連携を図ります。 （最終目標と最終年度）	—	—	—	やや遅れ 遅れ		

### 【Check】評価（分析）

<b>分析及び課題の整理</b>	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組んだことから、順調としました。 一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施しています。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

今後とも専門機関との連携を図り、保育士の発達障害への理解を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、支援の充実を図ります。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一貫した支援を行える体制作りに取り組みます。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	「発達障害者のためのサポートファイル」普及事業						掲載ページ
							184
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		45,591 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	44,776 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援
							障害福祉課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか 発達障害の方がライフステージを通じた一貫したよりよい支援が受けられるように、サポートファイル「りあん」の普及を目指します。				<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。	
<b>活動計画</b>	発達障害者支援センター「つばさ」を利用している保護者の方を中心に、サポートファイル「りあん」の作成目的、記入の仕方および利用の仕方等の説明及び勉強会を行います。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> <small>（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績（達成率）</b>	→	<b>【活動の状況】</b>	
	サポートファイル「りあん」についての研修会参加者数	151 人	増加	249 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	研修会への参加者数を増やす事が、サポートファイル「りあん」の普及につながると考え、活動指標としてあげました。 <small>（最終目標と最終年度）</small>					大変順調	
					順調	順調	
<small>（最終目標と最終年度）</small>				やや遅れ			
				遅れ			

### 【Check】評価（分析）

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	15回の研修会で249人の方が参加し、より効果的に、サポートファイル「りあん」の作成目的や記入の仕方および利用の仕方を周知でき、活用につながったと判断されます。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	北九州市の発達障害支援の中核を担っている発達障害者支援センター「つばさ」に事業を委託し、発達障害者支援センター「つばさ」を利用している保護者の方を対象の中心としたため、実際にサポートファイル「りあん」を活用していただくための周知を効率的に行うことができた判断されます。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

サポートファイル「りあん」を多くの方に利用していただき、発達障害児者の方への支援に役立てるため、サポートファイル「りあん」の内容を再度検討していきます。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	発達障害者総合支援事業						掲載ページ		
							184		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		207	千円	182	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	発達障害シンポジウムを行い（平成25年度は発達障害者支援センター「つばさ」の10周年記念行事）、当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者へ、発達障害についての理解・促進を図ります。					
<b>活動計画</b>	発達障害シンポジウム（平成25年度は発達障害者支援センター「つばさ」の10周年記念行事）の中で、障害のある方が望む支援や、つばさの業務内容、支援の状況について講演を行い、当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者への啓発を図ります。						
<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績（達成率）</b>	→	<b>【活動の状況】</b>	
	発達障害シンポジウム（平成25年度は発達障害者支援センター「つばさ」の10周年記念行事）の参加人数	81人	増加	234人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	発達障害シンポジウム（平成25年度は発達障害者支援センター「つばさ」の10周年記念行事）の参加人数が、発達障害に関する理解・促進の判断基準となるため、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					大変順調	
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

### 【Check】評価（分析）

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	昨年度までは、発達障害シンポジウムを行っていましたが、平成25年度は、発達障害者支援センター「つばさ」が10周年だったため、10周年記念式典を行いました。234名の当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者の方が参加しており、障害のある方が望む支援や、つばさの業務内容、支援の状況について理解・促進を図ることができたと判断されます。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	発達障害者支援センター「つばさ」に、業務委託することで、これまで築いていた支援ネットワークを活用でき、当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者への呼びかけを効率的に行うことができた判断されます。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

平成25年度は、発達障害者支援センター「つばさ」が10周年ということがあり、10周年記念式典を行いました。平成26年度は、発達障害シンポジウムを行い、引き続き発達障害についての理解・促進を図ります。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							184		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		69,063	千円	69,758	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。						
<b>活動計画</b>	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。						活動実績	活動実績は下記のとおりです。
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績 (達成率)</b>	→	<b>【活動の状況】</b>		
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数	161 件	維持	154 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)							
	保育所等訪問支援事業の実施件数	未実施	増加	183 件		順調 やや遅れ 遅れ		
	保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関わり方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成25年10月より、給付サービスの一つである保育所等訪問支援を3つの児童発達支援センターで開始しました。保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援事業等による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。



## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							184		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,824	千円	2,916	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）					
<b>活動計画</b>	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績（達成率）</b>	→	<b>【活動の状況】</b>	
	施設一般指導事業実施件数	161 件	維持	154 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）				大変順調		
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校からのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
総合療育センターは、再整備に向けて基本計画が策定されました。平成28年に西部分所開設、平成30年に本体開設予定です。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	医療機関との連携強化						掲載ページ
							184
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		45,591 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	44,776 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医療従事者を対象に、発達障害に対する理解を促進します。						
<b>活動計画</b>	医療機関での発達障害者に対する対応方法に役立てるために、医療従事者向けパンフレットを作成します。						<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） <small>（上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】	
	パンフレットの配布数		-	増加	2,700 部		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	医療従事者へ発達障害の理解を広く促進するためには、発達障害の特性についてわかりやすいパンフレットの作成が必要だと考え、パンフレットの作成数を活動指標として掲げました。						順調	
	<small>（最終目標と最終年度）</small>						やや遅れ	順調
							遅れ	

### 【Check】評価（分析）

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年度から平成24年度は、医療従事者を対象とした研修会を実施しています。発達障害に関する基本的な理解と対応方法についての研修会や、歯科医療における実践報告によって具体的な支援手法について学ぶ研修会を実施しました。平成25年度は、医療従事者向けパンフレットを作成しました。発達障害の方は、どのようなことが苦手なのか、また不安があって落ち着かないときはどのように対応したらよいのか等を記載したパンフレットを2700部作成することができ、成果は順調であると判断されます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	北九州市内の発達障害者支援の中核を担っており、平成22年度から平成25年度まで医療従事者を対象とした研修会を行ってきた発達障害者支援センター「つばさ」に、医療従事者向けのパンフレットの作成を委託することで、より医療従事者への発達障害の周知に役立つ、わかりやすいパンフレットの作成が低コストでできたと判断されます。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

医療の現場においても、発達障害者の特性に適した対応が必要なことから、今後も医療機関との連携強化を実施し、対応方法に役立つように、医療従事者にパンフレットを配布します。